

【視察先2】 遠田郡涌谷町 有限会社氏家農場 代表取締役 氏家 靖裕 氏

1 現在までの経過

氏家農場は、八代続く農家であり、土づくりと減農薬栽培にこだわって小ねぎ、青ねぎ、白ねぎ、みず菜の生産に取り組んでいる。

元々、この一帯は、ハウレン草の栽培が盛んな地域であったが、連作障害で生産量が落ちたため、代替えの作物を探し、ねぎに行き着いた経緯がある。現在、法人の会長を務めている父の治氏は、この一帯の小ねぎ生産の定着を主導した一人である。

両親そして長男も加わり、小ねぎ栽培を中心に家族経営で農業を行っていたが、その頃、自営業を行っていた靖裕氏は、農業を行うことは全く考えていなかった。

しかし、法人化するタイミングで「みず菜部門を任せてもらえるなら。」と29歳の時に就農を決めた。

現在、施設では周年で「小ねぎ」と「みず菜」、露地栽培では「白ねぎ」と「青ねぎ」、それに「水稻」を含めた複合経営を行っている。



2 経営について



代表取締役 氏家 靖裕 氏

- 会社設立 平成18年
- 資本金 1,000万円
- 従業員数 役員3名、社員7名、パート35名位、ベトナム人実習生6名
- 規 模 田（水稻）：8ha、露地野菜（白ねぎ・青ねぎ）：6ha、施設野菜（小ねぎ・みず菜）：6ha（ハウス面積は12,000坪）小ねぎ89棟、みず菜46棟、青ねぎ20棟 計155棟

「健全な野菜は健全な土づくりから」をモットーにすべて土耕栽培で、完熟堆肥・有機質肥料等を使用し、土壌のミネラルバランスまで配慮し、ASIAGAP認証を取得するなど、徹底した栽培管理を行っている。

平成22年に自社で販路を開拓し、県内で販売する50%以上は契約販売であり、卸先は、飲食店やホテル・直売所・加工業者などで、加工業者経由で有名うどんチェーン店にも納品されている。

今後は、ねぎの洗浄・調整を他所で行って作業の効率化を図ることや、ねぎの一次加工をするカット工場を建設することを計画している。

3 雇用について

人事評価制度を採用し、年間休日の確保など労働環境の整備に取り組んでいる。

求める人材は、「素直な人」。社員として、販路拡大のための「営業力」、そして、栽培面積増大に伴う「現場管理責任者」など、農業は未経験であっても、経験やスキルのある人を求めている。